

# 創年のたまり場が江東区に誕生

## 地域で力を発揮する中高年の拠点に

音楽会や作品展示、スホーシツなどを通じて、中高年者が交流する「創年のたまり場」が江東区大島六丁目に誕生した。

「創年」とは「地域のために自らの力を発揮し、創造的に生きる大人(中高年)」を指す造語で、聖徳大教授の福留敏さん(68)が提唱し、NPO法人全国生涯学習実践への会理事長として、創年活動を広めている。大島六丁目団地の一階に昨



「カフェ談話室 実業来」(江東区大島)が「創年のたまり場」に認定され、記念の交流会が開かれた=4月9日

九日に記念のイベントが同日とその周辺で開催された。同協会では昨年五月から

「創年のたまり場」の認定を始め、現在は全国で飲食店など約二百八十か所、関東では百か所ほどあるという。墨田、江東、葛飾、江川



「エコーベース」は年齢差や障害の有無に関係なく楽しめる“超軟式野球”だ(大島6丁目団地の広場で)

定の回店が第一号だ。

この日はまず同団地前の広場で「エコーベース」の親善試合が行われた。同競技は京都で生まれたニュースポーツで、少人数でも室内など狭い場所でもできる。グラブの代わりに手で握って持ちシットを使い、準備はローテーション制、試合時間は三十一五分と定められているなど野球とは異なる点もあるが、全体的には野球を簡素化した。超軟

地元の女子中学生や男子小学生、聖徳大の学生らも加わって和やかな雰囲気。野球はしたことがないという手塚穂子さん(74)も、「体を動かすから、いいと思いますよ」と「超軟式野球」を楽しんだ様子。試合終了後は同じボールを使う「シニアゴルフ」の体験会も行われた。

夕方からは「実業来」を会場に交流会が開かれ、福留さんと清水さんら関係者をはじめ、世代を超えて集まった人たちが大盛況。ウクレレやジャズの演奏を聞き、飲み物や料理を手にとり交流を楽しんだ。

健康管理士や食品保健指導士などの資格も持つ同店店主の相原利光さんは「予防医学や健康に関するセミナーの講師として活動するなかで「創年のたまり場」を知り、共鳴したという。相原さんは「まずは地域の人たちに知っていただけて、音楽や絵画、手作りの品などの発表の場として店を活用していただけたら」と話し、各種催しを続けながら「創年」たちの憩いの場として成長させていきたい考えだ。同店は日本エコーベース協会の東京支部にもなっている。問い合わせは同店が03-66-62077。

東都よみうり

2006年(平成18年)4月28日